

東日本旅客鉄道株式会社
東京工事事務所長
竹 内 研 一 様

J R 八高線に関する要望書

平成30年1月26日

瑞 穂 町
瑞穂町議会

J R八高線に関する要望書

大寒の節、貴社におかれましてはますます御清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、J R八高線は、町唯一の軌道系交通機関として、町の活性化に欠くことのできない極めて重要な役割を担っております。

町では箱根ヶ崎駅を「町の顔」として位置づけ、西側を「箱根ヶ崎駅西土地区画整理事業」により整備し、着々と進展しております。また、東側は東京都を主体とした駅前広場をはじめとする周辺整備事業が完了し、駅利用客の利便性が向上しました。

統計では通勤・通学等により、毎日約2万3千人が瑞穂町に出入りしております。箱根ヶ崎駅利用者数も平成28年度は一日平均4千4百人と、年々増加傾向にあります。このように交通需要は大きいものの、八高線の本数の少なさ、深夜0時以降の運行が無いこと、地方交通路線のため運賃が高い等の理由から、多くの町民が八高線に不便を感じ、自家用車等を利用しているのが現状であります。

また、多摩都市モノレールについては、交通政策審議会の答申の中で、「地域の成長に応じた鉄道ネットワークの充実に資するプロジェクト」の一つに、多摩都市モノレールの箱根ヶ崎方面延伸が位置付けられました。この延伸の実現による八高線との接続は、交通利便性の向上に大きく繋がります。

このようなことから、町民の中では八高線の運行本数の増発、新駅の設置、車両基地の建設及び複線化等の利便性向上への期待が非常に高まっています。

しかしながら、平成22年の車両基地及び拝島～箱根ヶ崎駅間の複線化計画を当面着手しないとの発表は、今後のまちづくりに甚大な影響を与えるものであり、町及び町議会としては容認することはできません。

町及び町議会では、現在推進している箱根ヶ崎駅西・殿ヶ谷の2地区に加え、箱根ヶ崎駅と金子駅のほぼ中間に位置する栗原地区の土地区画整理事業計画を進めるなど、沿線開発を積極的に進め、貴社の事業に引き続き協力してまいりますので、一日も早い現計画の凍結解除と事業着手について特段の御配慮を賜りますようお願いいたします。

平成30年1月26日

東京都西多摩郡瑞穂町

瑞穂町長 杉浦裕之

瑞穂町議会

議長 小山典男

瑞穂町議会交通対策特別委員会

委員長 山崎栄